



令和 8 年 7 月号
杉並区立堀ノ内子供園
園 長 大塚 玲華

「共に育ち合う堀ノ内子供園の子どもたち」

特別支援教育コーディネーター 中村 咲希

1学期も残り20日程となりました。子どもたちは4月からの新生活にもすっかり慣れ、元気いっぱいに登園し、遊びや様々な活動を先生や友達と安心して楽しんでいます。一方で、集団生活の中で「トラブルが増えて心配」「我が子はみんなのペースについていけない?」「就学が近づいて不安だな」など、漠然とした心配事がある保護者の方もいるのではないかと思います。

さて、【特別支援教育】と聞いて、保護者の皆さまはどのようなことをイメージしますか。

- ・障がいがある子だけに特別な教育をすること?
- ・一人ではできないことの全てをサポートしてくれることが特別支援?
- ・いずれ支援学級や支援学校などに行くような子が受ける支援?

このように【特別支援教育】と聞いてもざっくりとしたイメージしか浮かばない方もいるでしょう。

【特別支援教育】は特別な配慮を必要とする子を特別扱いすることではありません。いろいろな個性や特性をもつ友達と一緒に生活する中で、互いに学び合い、違いを認め合ったり助け合ったりします。学級の一員として、安心して子供園生活を勧めていくことを大切にしていきます。

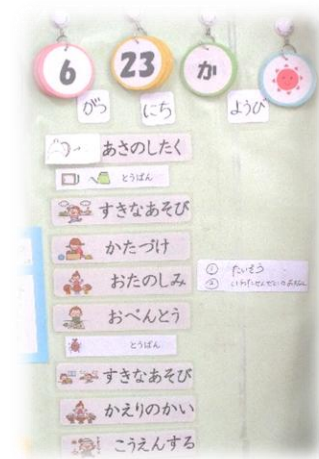
堀ノ内子供園では、障がいの有無にかかわらず、一人ひとりへの配慮がクラス全体への育ちに繋がり、クラス全体への指導の工夫が一人ひとりの育ちに繋がるように、保育者が指導の工夫や環境の工夫をしていくことを大切に保育を行っています。

堀ノ内子供園での特別支援教育の具体例を1つご紹介します。

～安心して自分たちで園生活を送れるように伝える～

5歳児きりん組では、幼児の実態に合わせて1日の流れを右側の写真のように表示し、口頭でも知らせます。いつもと違うことにドキドキしてしまう子は安心感をもち、学級全体の幼児は活動に期待感をもちます。全体への話の中で情報を受け取りにくい幼児には後から個別に伝えたり、担任補佐や学級補助の職員が連携して、隣でポイントを絞って分かりやすく伝え直したりもします。口頭や絵表示の工夫、保育者間の連携ですべての幼児に伝わるように工夫しています。

もちろん保育者から予定を知らせるだけではなく、学級の皆で相談して決めることもあります。言われたことだけをするのではなく、必要感をもって活動を進めていく学びにもつながります。その中にも絵表示や言葉の橋渡しなどの伝え方の工夫を行っています。



今年度の堀ノ内子供園は「子どもが「しあわせ」・保護者も保育者も「しあわせ」な堀ノ内子供園」の経営計画のもと、特別支援教育については「自分らしさを出しながら、集団の中で全体的に育つことができるように」をねらいに個別の指導計画の作成や園内委員会、巡回相談での学びなど様々なことに取り組んでいます。お子さんの育ちや園での生活について不安や気になることがありましたら、担任、園長、特別支援コーディネーターにどうぞご遠慮なくお声掛けください。必要に応じて、関係諸機関とも連携しながら、保護者の方と一緒にお子さんの成長を支えていきたいと考えています。

・ 今月の指導 ・

うさぎ組

「私プリンセスなの。」「傘を持ってお散歩に行くの。」「飛行機作りたい。」など、自分のやりたいことを見付けて遊んでいます。簡単な場やものをつくり、その中で自分が思ったように動いたり、他の幼児と触れ合ったりすることも楽しくなってきました。水遊びも始まりました。じょうろやひしゃく、魚すくい、水車などの遊具で遊び水に触れたり、新聞紙プールの中でのびのびと動いたりすることを楽しんでいます。水着の着替えや支度は、保育者に手順ややり方を教えてもらいながら、自分でできるところはやってみようとして取り組んでいます。

7月は、次のことを重点に指導をしていきます。

- 自分のやりたい遊びを見付けて遊ぶ中で、保育者や他の幼児と触れ合うことを楽しむ。
- 水遊びの支度の流れや約束を知り、水に触れて遊び心地良さを味わう。
- 生活の仕方が分かり、保育者に見守られながら身の回りのことを自分でしようとする。

好きな遊びの中で「これやってみたい!」と自分のやりたい遊びを見付けられるよう幼児の興味・関心や季節に合った教材を製作コーナーに用意したり、幼児と一緒に場を作りながら遊び始めを支えたりしていきます。また、晴れた日には水分をしっかりと取りながら、水遊びやプールを楽しみます。それぞれの幼児のペースで少しずつ水に親しみ、心地良さを楽しさを味わえるようにしていきます。

ぱんだ組

水遊びが始まりました。水の中でいろいろな動きをしたり、遊具を使ったり宝探しをしたりして遊ぶことを楽しみながら水の面白さや心地良さを味わっています。

好きな遊びでは、「中に入れるテントを作りたい。」「クッキー屋さんにお客さんを呼びたい。」など遊びの簡単なイメージを保育者や友達に伝えてみようとし、保育者の提案や仲介を受けながら、ものや場を作ることや、興味を介して友達と触れ合うことが面白くなってきました。

学級の活動や弁当後の時間には、みんなで鬼遊びをすることも楽しくなってきました。保育者から逃げたり、保育者と一緒に逃げたりしながら、学級のいろいろな幼児と触れ合って体を動かす楽しさを感じています。

7月は、次のことを重点に指導をしていきます。

- 水の感触を楽しみながら、様々な遊びや動きをして、開放感を味わう。
- 保育者や友達と触れ合ったり関わったりして遊ぶ楽しさを味わう。
- 学級のみんなと一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。

友達にも思いを出してみようになってきた分、友達と思いが違うことも増えてきました。個々の幼児の思いを受け止め、相手の気持ちにも気付けるように援助してまいります。また、水遊びも始まり、疲れが出てきているので、ご家庭ではぜひゆったり過ごせるようにしてください。

きりん組

友達と一緒に同じイメージをもって遊び始める姿が見られるようになっていきます。その中で友達や保育者と話していると、「今日は〇〇をしよう。」と遊びの中での細かい目的が見つかり、遊びに必要なものや場所をつくって遊ぶことを楽しんでいます。様々な用具や素材を組み合わせ、自分や友達と考えたことを実現していく面白さも感じるようになってきました。

7月は次のことを重点に指導していきます。

- 「こうしたい」という自分なりのめあてをもち、考えたり試したりしながら遊びを進める。
- 思いや考えを言葉で伝えながら、友達と一緒に遊びを進めようとする。
- 水の心地よさや開放感を味わいながら、プール遊びや水遊びを楽しむ。

友達との遊びの中で、思いが共通になることの嬉しさを感じ、保育者に支えられながら友達と遊びを進めていくことを楽しめるようにします。あわせて、自分なりのめあてに向かって考えたり、試したりしながら遊ぶことの楽しさも支えていきます。プール指導では、一人ひとりが水の心地よさを感じ、水の中で動くことを楽しむ中で、「次はこれをやってみよう。」と自分なりのめあてをもって取り組めるようにしていきます。